



# 日本における 『宗鏡録』の受容

柳 幹康

『宗鏡録』はこれまで見てきた中国・朝鮮のみならず、遠く海を越えて我が国日本にも伝わります。その伝来は遅くとも平安末の一〇九四年以前のことです。その後『宗鏡録』は栄西や円爾・夢窓疎石など鎌倉・室町期の臨済宗の禅僧を中心に広く受容されました。今回はその概要について申し述べます。

栄西（一一四一—一二一五）は周知のとおり日本臨済宗の祖とされる鎌倉期の高僧です。二度の入宋を経て禅の法を嗣ぎ、帰国した後に禅宗を弘めますが、既存の天台宗の反発をまねき、朝廷から布教を禁じられています。これに反論すべく栄西は『興禅護国論』を著し、そのなかで『宗鏡録』を用いて、天台宗の非難が不当であること、自身の禅が仏教の正しい教えであることを論じています。更に栄西は大藏経閲覧が困難な当時において、仏典の「要文」集たる『宗鏡録』を「修入の方便」——仏道修行の入り口を万人

に開く重要な書物——に位置づけました。

円爾（一二〇二—一二八〇）も同様に入宋し禅法を伝えた鎌倉期の禅僧で、帰国後に時の権力者九条道家に招かれ東福寺の開山となります。道家は天皇の外祖父、鎌倉幕府四代將軍の実父、東大寺・興福寺の別当や延暦寺の座主など諸宗の高僧の実父として当時絶大な権勢を誇った公卿で、自らを聖徳太子になぞらえ、諸宗を包摂する総合寺院の建立を目指していました。円爾はその宿願に応え、『宗鏡録』を用いて禅を核とする総合的な仏教を宣揚します。道家の強力な庇護のもと円爾が講じた『宗鏡録』は、時の天皇や公卿、そしてかつては榮西の禅を批判した天台宗をはじめとする諸宗の高僧の間に広まっています。とくに円爾の進講を受けた後嵯峨天皇は、自身が所蔵する『宗鏡録』の末尾に「朕はこの書を円爾より得て本性（宗の心）を看取した」と書き記したといえます。

夢窓疎石（一二七五—一三五二）は鎌倉期

から建武の新政を経て室町期にいたる激動の時代を生きた禅僧で、禅を要とする自身の総合的な仏教観を根拠づけるものとして『宗鏡録』を用いました。「七朝の帝師」と称されるように歴代の天皇より国師号を七度も賜わった夢窓の門派は室町幕府の外護も得てその後大いに榮え、その教えを受けた人々も同様に『宗鏡録』を重視しています。たとえば夢窓の後を嗣ぎ天龍寺の住持となった無極志玄は『宗鏡録』を抜粋して『色塵集』三〇巻を編み、夢窓の甥でその法を嗣ぎ、夢窓の寂後一派の中核を担った春屋妙葩は『宗鏡録』を出版しています。また同じく夢窓の法嗣で五山文学の旗手として名高い義堂周信も『宗鏡録』を閲覧・書写したほか、時の為政者足利義満に対し『宗鏡録』の撰述など延寿の事績を紹介しています。さらに直接の法嗣ではありませんが、夢窓のもとで出家し教

えを受けた愚中周及も『宗鏡録』を抜粋して『冥明抄』一卷を編んだほか、夢窓に学び無極志玄の法を嗣いだ空谷明応も『宗鏡録』の講義を行っています。

これら禅宗における受容に前後して、真言や天台、浄土など他宗でも『宗鏡録』が広く読まれていきました。また近年の研究では、『宗鏡録』が能の大成者世阿弥（一三六四？—？）に影響を与えた可能性も指摘されています。

このように一世を風靡した『宗鏡録』ですが、日本ではやがて人々の記憶から薄れていきました。これは恐らく次のような事情——それまで禅宗を外護していた幕府の権威が応仁の乱により失墜し、権力が地方に分散する戦国時代に入ると、諸宗分立の道に拍車がかかり、『宗鏡録』による仏教全体の統合が志向されなくなったこと——に由るのだと思います。

とはいえ『宗鏡録』は完全に忘れ去られてしまったわけではありませんでした。たとえ臨済宗中興の祖の白隠（一六八六—一七六九）は悟後の修行——無量の法財を集め各種機根の衆生を救う覚者の実践——を明かす書物として『宗鏡録』に注目し、飘逸な禅画で知られる仙厓（一七五〇—一八三七）の蔵書目録にも『宗鏡録』の名が見えます。さらに近くでは鈴木大拙（一八七〇—一九六六）も禅の思想を紹介するに当たり『宗鏡録』を参照しています。いわば『宗鏡録』は禅の立場から仏教を広く知るための資料集として、その後も読まれ続けたのでした。

柳幹康（やなぎ みきやす）

一九八一年栃木県生まれ。二〇一三年東京大学大学院博士課程修了、博士（文学）。現在花園大学国際禅学研究所専任研究所員・専任講師。著書に『永明延寿と『宗鏡録』の研究——一心による中国仏教の再編』（法藏館）。

# お願い

## 花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の官製はがきを使用し、各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。

\*ㄆ切りは毎月1日です。

## 花園へのご意見・感想など

本誌へのご意見・感想など、「編集室花園係」までお送りください。  
お待ちしております。

送り先

〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町64  
妙心寺派宗務本所内編集室  
俳壇／歌壇／花園 係

\*住所、氏名を必ずお書きください。

\*俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)

\*なお投稿はお返しいたしません。

**花園**  
hanazono

「いつもココロに花園を」  
あなたとわたしのポケットエッセイ集

- 【花園】第68巻 第2号(通巻第798号)  
平成30年2月1日発行(毎月1日発行)  
定価55円
- 【発行人】栗原正雄  
【編集人】畠中寿浩  
【印刷人】喜田真司  
【発行所】〒616-8035 京都市右京区花園  
妙心寺派宗務本所 教化センター  
振替／01060-9-1400番  
電話／075-463-3121番

表紙の絵 「きらきら…」



つららに霜柱、バケツの氷…手を真っ赤にしながらも、冬のお庭は素敵なものばかりです。  
絵・SAYOKO

妙心寺派ホームページ…………… <http://www.myoshinji.or.jp>  
臨黄ネットワーク(臨濟宗・黄檗宗全般)…… <http://rinnou.net>

『花園』誌一冊送りの年間購読料は、1,560円(送料込)です。  
お申し込み・お問い合わせは旗布課まで。

\*乱丁、落丁本はおとりかえいたします。